

# 人脈が迅速な活動に

AMDA活動報告

## 救える命があれば

### どこへでも

□14□

菅波 茂



二月十七日朝、フィリピン・レイテ島南部のセントバーナード町ギンサオゴン地区で豪雨による大規模な地滑りが発生した。小学校や住宅、教会などが広範囲で埋没した。約二百五十人の小学生が生き埋めになるなど死者・行方不明者が千人を超える惨事となった。

同日夕、AMDAは緊急医療派遣支援チームの派遣を決定し、翌十八日、本部職員が調整員と

して日本を出発した。本部からの医師、看護師、調整員に加え、インドネシア支部からも医師を派遣した。日本から現地入りした緊急医療支援NGOはAMDAだけだった。

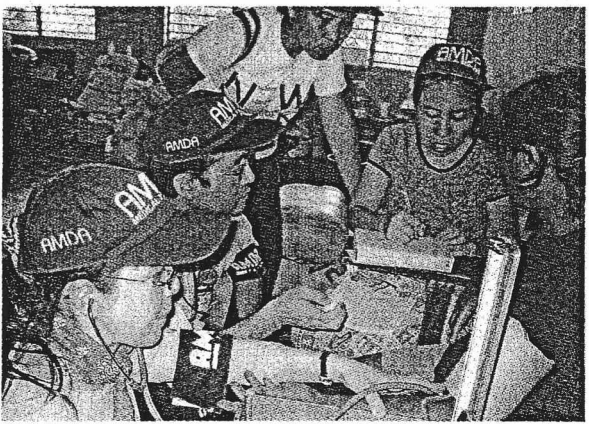
## 比レイテ島緊急支援

フィリピンのスラムの子どもたちに対して教育支援をしている金光教平和活動センターマニラ事務所の協力が、心強かった。全国規模での報道をきっかけとして貴重な支援をいただいたことは、赤字覚悟のAMDAにとっては天からの慈雨だった。

AMDAは避難所と病院での診察と健康診断、救援物資（医薬品・医療消耗品・生活物資）を配布した。避難所の一つクリストレイ高校には、約二百八十世帯・約六百四十人の被災者が收容されていた。呼吸器系疾患（気管支炎、風邪正候）の患者に対し、公式にAMDA救援医療チームの受け

AMDAの活動が迅速にできたのは、七十歳のキーパーソン、プリミテイボ・チュア医師がいたからだ。温和で人望の厚い中国系フィリピン人で、元フィリピン医師会長であり、AMDAインターナショナルの名譽顧問である。彼の調整力なくして今回の救援活動はできなかった。

## 抗日運動の歴史乗り越え



クリストレイ高校避難所で診察する（左手前）竹内看護師、数谷医師、現地スタッフ2人（2月21日、フィリピン・レイテ島）

（AMDA提供）

フィリピンでは六回目の慰霊祭がバターン半島で今年二月二十二日に行われた。その五日前にレイテ島で大災害が発生していたことを、しみじみと話してくれたことがある。彼は敬虔なクリスチャンで、戦争で亡くなったすべての人たちのための慰霊を提案。二〇〇〇年に第一回の慰霊祭をマニラのカトリック教会で開催した。

入れを要請してくれたのに入浴と衣服を配布する慈善活動も時折実施しており、幅広い活動をしている。チュア医師は首都マニラの貧困層のために定期的に巡回診療を実施している。チュア医師はAMDAの信者がたくさんおられた。石を投げられるのではと心配したが、杞憂に終わった。五回目にこの連載は毎月第四日曜日に掲載します。